

## 内外交差点

# ひたすら空しいRS巡る空中戦 現場を振り回すなら本末転倒

加藤 博和氏 (名古屋大学大学院教授) 第7/12回

9月は授業がないのに仕事が殺到し、この原稿も焦りながら書いている。仕事の1つが、26日午後に出席した、内閣府「規制改革推進会議 サブワーキング・グループ」。タクシー業界の皆様にとってはおなじみの、ライドシェアに関する議論が行われている場である。規制改革推進会議ではライドシェア以外にも多くの案件が検討され、業界どっぴりの人間は参加させないことが原則になっている。さもなくば思い切った改革はできないので当然だが、浮世離れした改革を提案しても意味がないので、今回、関係者に話を聞く機会を設けたようである。オンライン開催で、意見を述べる時間を5分間いただいた。2時間の会議で他にも多くの方々から意見を聴くのでやむを得ないが、5分で大事なことを一通り確実に伝えるには相当の吟味が必要である。10枚ほどのプレゼンスライド作成に12時間以上かけ、完徹で臨む羽目になった。しかし会議は非公開で、資料や議事録はHP等で公表されない。個人的には、公開しても全く問題ない内容と感じたが…。

さて、このサブWGは「タクシー事業者以外の者が行うライドシェア事業に係る法制度を含めた事業の在り方の議論」がミッションになっている。この書きぶりは、ライドシェアは世界的には「タクシー事業者以外の者が行う」ものを指すことを踏まえるとナゾである。自家用有償運送改め「公共ライドシェア」は「タクシー事業者以外の者が行う」が、海外に同様の形態があるとしてもライドシェアとは呼ばないと思われる。ましてや「タクシー事業者が行う」自家用車活用事業はまさに「日本版」である。

ここで改めて思うのは「日本人はライドシェアという言葉が好きなんだろうなあ！」ということである。海外で流行しているものの名を日本ではいささか異なるものに当てはめることは、交通の世界でもLRT・BRTやMaaSという前科がある。ガラパゴスと言われようが、国情にふさわしいオリジナルのものを導入するなら問題ない。しかし、それに固有の名前を付けず日本版〇〇などと呼ぶ必要性は皆無である。一方、これまで過疎地を中心に(緑ナンバー事業者が対応してくれないために、地域のシロウトの皆さんが)多くの事例を積み重ねてきた自家用有償運送を、新参者たちが勝手に公共ライドシェアと名付けるなど、軽薄かつ傲

慢極まりない。

私が取り組むミッションは「全国津々浦々でのおでかけ環境確保・向上」である。そのため、タク

シー・バス事業者と一緒に仕事してきたし、自家用有償運送の立ち上げもやってきた。私にとってはいずれも、ミッションを遂行するための「道具」である。そして私の出張が多いのは、全国各地で救いを求めている人たちがいるからである。一人のできるわけがないので、仲間たちと協力し、さらには人材育成プロジェクトまで行っている。このような立場にいる者として、定義さえよくわからなくなっているライドシェアの議論に時間を費やしている人たちは、ライドシェアでも何でもいいから救ってほしいという切実な声に背を向け自己満足していると思えない。

また、ライドシェアが「自家用車を利用し1種免許しか持たない運転者が白タク営業すること」だとして、ライドシェア推しの皆さんが「その導入によって運転者が大きく増加する」という思い込みをされていることが根本的に間違っている。運転者を例えば理容師・美容師に置き換え、資格がない人がお金をもらってカットする、その人にお金を払ってしてもらうことを考えたらいい。ましてや髪を切るのは時間を選べるが、移動は時間を選べないことが多く、運転者と需要とのマッチングがうまくいく保障は全くない。結局私は、5分間の多くを「運転者確保策こそが大事」という話とその具体策に費やした。日本では、運転者を需要に応じて確保することにライドシェアはあまり貢献できず、運転者の待遇を全産業平均並みに引上げ、さらにダイナミックプライシングを導入するしかないと考えている。それゆえに、ライドシェアを巡る空中戦はひたすら空しいし、ましてやそこで決められたことで我々現場や困っている地域が振り回されるなら本末転倒と思っている。その上で、プレゼンの最後に書いたことを記す。

「タクシー業界は『ライドシェアが話題になると新たな施策を考える』お決まりパターンから脱し、地域・社会が望む交通サービスにどう対応するかのソリューションを提案・実現できるレベルになっていただく必要がある」

なお、この具体策を書いた原稿は、「国際交通安全学会誌 (IATSS Review)」49巻2号(2024年10月発行予定)の特集「(仮) タクシー・ライドシェア」に掲載される予定である(webで閲覧可能)。この後、最終校正の作業をしなければ。

